



と [www.tenpla.net](http://www.tenpla.net)

## プラネタリウム

vol.  
215

☆ 高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台)

みなさん、御朱印は集めています?神社やお寺で押してもらえる御朱印は、ここ数年ちょっとしたブームになっているようです。ブームになる前から集めていた身としてはちょっと複雑な気持ちもありますが、ブームに乗じて御朱印や御朱印帳(御朱印専用のスタンプ帳)の種類が増えたりするのは、御朱印好きとしてはありがたいこと。星絡みの寺社の御朱印や、天文っぽい感じの御朱印帳などもありますので、気になる人は調べてみると良いでしょう。お気に入りの御朱印帳に、ひとつ、またひとつと御朱印が増えていくさまはコレクター魂をくすぐってくれて、なんとも言えぬ満足感があります。

いまいち共感できない方は、夏休みのラジオ体操でスタンプカードに押してもらっていたハンコを思い出して下さい。あれ、嬉しくなかったですか?世代じゃない?じゃあ、ポケモンでもOK。少しずつ集めていって、コンプリートを目指すあの感じ。伝説では弘法大師が作ったとされる四国八十八カ所巡りも、ある意味でスタンプラリー的な仕掛けと言えなくはないでしょう。どうも人間の本性として、集める快感に抗えないという性質がありそうです。

そここで紹介したいのが、天プラで作っている星空のスタンプ帳。名付けて<天体収集帖>です。元々は、私たちが面倒を見ている小学校の天文部活動に参加している子どもに使ってもらおうと思って

天プラで作っているグッズのひとつ、<天体収集帖>。単なるスタンプ帳に留まらないその中味をご紹介します。

作ったのが最初です。中を開くと、肉眼や簡単な望遠鏡で見える基本的な天体の一覧があるのに加えて、「12星座を全部言える」「1等星の名前を10個言える」「準惑星がなんだか説明できる」「銀河系がどんな世界か説明できる」といった知識を問うようなチェックリストや、「月の出を見たことがある」「天体望遠鏡を組み立てられる」「国立天文台(野辺山)に行ったことがある」といった技術や経験を問うようなチェックリストが用意してあります。その数、全部でおおよそ230項目!子どもはこれを片手に部活動に励み、目標を達成するたびに私たちスタッフがハンコを押してあげる、といった使い方をしています。

この天体収集帖を作って良かったなと思える点をいくつか。まずは子どもの受けがよく、部活の楽しみのひとつになっていることでしょうか。単純に、スタンプが増えていくさまを楽しんでもらえているようです。分かる分かる、集めるの楽しいよね。次に言えるのが、指南書として機能していること。初めて月や土星を見て感動したあと、さて次はなにを見てみようかな...と思った時に、さまざまな選択肢を指し示してくれるガイドブックとして、このスタンプ帳を使ってもらっているようです。私も含め、指導側はいろいろ偏っていますので、バランスの良い(?)ガイドダンスができることはありがたいことです。さらには、コミュニケーションツールとしての有用さです。「ここにスタンプ押し!」と私たちのところにやってきてくれるわけですが、そこからいろいろなお話しをすることができます。なんだか訳の分からない私たちに子どもが話しかけるには、なにかきっかけがあると良いということで、天体収集帳は潤滑なコミュニケーションにも欠かせない存在となっているわけです。

そんなお気に入りの天プラ謹製グッズのひとつである天体収集帖

ですが、これを取り巻く環境が大きく変わったのが2年前。そう、新型コロナウイルスの登場です。対面の活動は軒並み中止に追い込まれ、小学校の天文部活動も休止となってしまいました。活動自体はしばらくしてオンラインで復活したのですが、小学校に行けない状況は変わらないまま。ハンコが押せない以上、天体収集帖の出番も無しということで、たいへん寂しい思いをしていました。そこでいま、天プラで企てているのが天体収集帖のデジタル化です。これまでのスタンプ帳としての機能をそっくりそのままウェブアプリ化するのに加えて、星空や宇宙のことについてもっと詳しく知りたいと思ったときに、インターネットの海に出かけられるようなポータルとしての機能も付け加える予定です。そう、これはまだ予定。実はこれから作るんです。無事完成しましたらまたご報告しますが、私にもアイデアを出させなさい!という方がいれば天プラまでご一報!



天プラ謹製天体収集帖。A6サイズで、全36ページあります。